

第 4 章

公開授業・公開検討会

平成17年度山形大学教養教育改善充実特別事業

公開授業&公開検討会

〈公開授業〉

日時 平成17年11月30日(水) 8:50~10:20

授業名 一般教育科目 文化・行動領域 文学

「変異する日本現代小説」

授業者 人文学部 中村 三春 助教授

教室 小白川地区 教養教育1号館2階 127番教室

工・農学部 リモート講義室

*e-learningシステムを利用したリアルタイム配信も行います



〈検討会〉

日時 平成17年11月30日(水) 13:00~14:00

会場 教養教育1号館3階 137番教室(小白川地区のみ)

内容 上記の授業を参観後、当該授業、e-learningに対する検討を行う



*中村助教授の「変異する日本現代小説」は、毎時間e-learning-動画コンテンツのリアルタイム配信テストを行っております。(工・農学部へはリモート配信も)公開授業当日も、会場へおいでいただけない場合は、インターネットを利用して授業の参観を行えます。また、授業終了後、受講者の録画配信も行いますので、空き時間を利用して参観いただくこともできます。

参観者は、ぜひ検討会へもご参加ください。なお、検討会の配信は行いません。詳しくは、下記URLより、公開授業・公開検討会-平成17年度実施要項のページをご覧ください。

<http://www.yamagata-u.ac.jp/gakuru/kaizen/ksite/index.html>

山形大学高等教育研究企画センター 豊かな授業を求めて-公開授業・公開検討会-平成17年度実施要項

高等教育, e-learningに関心のある みなさまの参観をお待ちしております!

主催: 山形大学高等教育研究企画センター・山形大学教育方法等改善委員会

共催: 地域ネットワークFD “圏水”

お問い合わせ: 山形大学高等教育研究企画センター (023-628-4707)

第4章 公開授業・公開検討会

はじめに

山形大学の教養教育では平成12年度から大々的な「公開授業・公開検討会」を開始し、平成14年度のブランクを挟んで、今年で5回目となる。1回目(平成12年度)は生物学, 2回目(平成13年度)は歴史学, 3回目(平成15年度)は英語, 4回目(平成16年度)は教養セミナー「山大マインド」であった。特に昨年度の「山大マインド」は、仙道学長自ら企画や授業に参加するもので、平成13年度に行われた教員の研修の場である「FD合宿セミナー」から生まれた。主に社会で活躍している卒業生に話をしてもらい、学生も主体的に参加できる授業形態として工夫されている。

今回は「文化・行動」領域から、「変異する日本現代小説(文学)」, 授業者 中村三春助教授が取り上げられた。中村先生の公開授業は2度目で、前回の授業で出されたパワーポイントの使い方などいくつかの指摘を受けての、いわゆるリベンジ的なところもあったようだ。またこの授業は、e-learningの一環としてWeb上にリアルタイム配信も行われた。カメラはほぼ無人でスクリーンとその下に授業者の中村先生が話をする姿が捉えられる形に据えられた。授業ではパワーポイントに加え、板書の変わりにパソコン上でその場で書きながらプロジェクターで投影するという、新しい試みもなされていた。それは一定の効果があったようで新しいスタイルに感心する参観者と、従来の黒板に板書というスタイルに慣れている教員からはとまどいも見られたようだ。そのあたりは検討会記録を参照していただきたい。

山形大学の「公開授業・公開検討会」の方法は、全国的にもかなり知られるようになった(平成16年度 教養教育授業改善の研究と実践)。その山大方式とは、簡単に言えば、授業者は普段どおりの授業を公開し、参観者は15回分の1回を見るということである(「ミニ公開授業・検討会」を実施するにあたっての留意点, 参照)。中村先生の公開授業もまさに15回分の1回の授業であり、やはり特別なことはやられていないと言う。このあたりに、公開授業が続いていく秘訣がありそうだ。授業を準備するときも、公開に向けて特別な準備をする必要もなく、授業をするときのテンションも特に上げる必要もない。また、参観する方も学生の普段の態度も観察でき、よりリアルに伝わってくる。

今回の公開授業では、山形県立保健医療大学からWeb配信された授業を参観され、メールで貴重な意見もいただいた。さらに、公開検討会では山形短期大学からも参加していただいた。この「公開授業・公開検討会」は、山形県内の大学・短大が連携してFDを行う「地域ネットワーク樹氷」との共催事業であり、形ばかりではなく実効のある取り組みとして定着しつつあることが分かる。

ミニ公開授業では、後期だけで4つの授業が公開された。特にドイツ語は毎年1~2件の授業が公開され、分野として非常に積極的な取り組みとなっている。これは昨年の報告書にもあるように、ドイツ語集団の自主的な取り組みで平成

14年度から続けられているものである。こうした関係者の努力に深く感謝申し上げる。さらに、この不断の努力が分野全体の授業をレベルアップし、活力の一つになることは間違いないので、他の分野・領域に広がることを期待したい。

1. 公開授業・公開検討会



公開授業・公開検討会 日程

【公開授業】

日 時 : 平成17年11月30日(水) 8:50~10:20
講義室 : 127番講義室(教養教育1号館2階)
授 業 名 : 変異する日本現代小説
担当教員 : 中村 三春(人文学部助教授)

【公開検討会】

日 時 : 平成17年11月30日(水)13:00~14:00
会 場 : 137番講義室(教養教育1号館3階)
次 第 : 13:00 開会のあいさつ
13:05 授業の観察報告
・教員の観察(5分)
・学生の観察(5分)
・授業全体の流れ(5分)
13:20 授業者の意見(5分)
(授業・e-learningについて)
フリートーキング
14:00 終了

公開検討会記録

出席者

授業者 中村 三春 助教授
 司 会 小田 隆治 委員
 観察者 授業者観察 今野 健一 委員
 学生観察 中島 和夫 委員
 参加者 元木 幸一 委員
 地域教育文化学部 佐々木 武彦 教授
 山形短期大学 小田 良子 教授
 受講学生 石田 修
 TA 高橋くるみ
 高等教育研究企画センター 蜂屋 大八 主任
 小沼 恵美 係員



司会(小田) これから公開検討会を始めます。私は授業があったので、公開授業を見ることができませんでした。それで、お昼休み時間から今までかかって、Web で配信されているものを見てきました。生の授業だけでなく、e-learningまで広げたところが、今回の授業の一番の特徴だと思います。それでは早速、今野先生、授業者観察の報告をお願いします。

今野 8時50分、定刻に講義が開始されました。遅刻する学生がいて、少々落ち着いた雰囲気で始まりました。また、授業中の学生の出入りも気になりました。

この講義では、基本的に、パワーポイントのスライドを使用しつつ口頭での説明を行うという講義スタイルが採られており、適宜、配布されたレジュメ(文学作品の梗概や引用を掲載したもの)を参照し、また、キーワードをプロジェクターの画面上に打ち込んで示すという手法が併用されていました。

本日の講義は、「傷つけやすさと傷つけられやすさ」をキーワードに、村上春樹の作品を読み解くという内容でした。授業開始後、村上作品を時系列に沿って紹介し、概括的な説明がありました。小説の形式の意義に関する説明があり、近代小説とは何ぞやという趣旨の解説もありました。

その後、キーワードの1つとして、「額縁構造(小説)」という用語が説明されました。「小説は読まれなければ意味がない」のであり、これは読者を小説に誘惑する構造なのだ、との解説に納得しました。

ところで、この授業では「余談」が随所に挟みこまれ、それぞれ、興味深い話題提供となっています。それらの多くは授業内容と密接な関連を有するもので、授業内容を学生により良く理解させる上での触媒の役割を果たしているように思えました。私も、余談を聞きながらしばしば考えに耽ってしまい、本論に戻ったときの頭の切り替えが難しいこともありました。

9時10分過ぎから、村上の『ノルウェイの森』との親近性を有する作品として、夏目漱石の『こころ』が取り上げられました。特に、『こころ』は言わば未完の作品なのだよ、という中村先生の指摘に興味深く聞きました。

9時20分頃、『ノルウェイの森』の解説に戻りましたが、すぐに、小谷野敦の村上春樹批判の批判的読み方を披露する余談が始まりました。村上作品の固有の読解に戻ったのは9時25分で、ここから9時49分までの約25分間で、本日の授業のテーマ「傷つけやすさと傷つけられやすさ」にかかわる最も重要な説明が展開されたと思えます。

その後、vulnerability をキーワードに、「傷つけやすさと傷つけられやすさ」という特性が現われている村上作品の解説に向かいました。10時過ぎまで、作品『タイランド』を素材に、攻撃誘発性の問題に関わる作家の意識の変化、問題解決への動きについて解説がなされました。

10時7分から、作品『蜂蜜パイ』の解説に移行しましたが、漱石やルネ・ジラルの話話が挟み込まれて、本格的な展開は行われませんでした。

10時18分、授業が終了し、次回の内容と感想文を書かせる旨の予告がありました。最後に、全体的な印象が述べられました。

中村先生の講義は、全体的に、明晰で声の通りも良く、内容は論理的であると感じました。パワーポイントのスライドやレジュメの作成も丁寧です。他方、戸惑うこともありました。私は、日本現代文学の講義、というより文学の講義自体、聴講したことは一度もありませんし、本日取り上げられた村上春樹の作品は未読です。そのため、講義の内容は、余談の部分も含めて、相当に興味深いものでしたが、些か難解・晦渋と感じられました。また、私の経験上、学生レベルでは難解であると思われる言葉が、しばしば口頭説明に織り込まれているため、学生の理解の程度が気になりました。さらに、受講学生数の多さからも仕方がないのでしょうが、講義は一方通行的なもので、居眠りをしている学生が少なくなかったのも残念でした。



司会 続いて、学生の観察報告を中島先生お願いします。

中島 学生の様子について報告します。

8時50分に授業が始まったときには、学生数は52～53人でした。大半の学生が前から2/3位までの列に座っていることが印象的でした。その後、9時8分に最後の学生が入ってくるまで、7～8人が遅れて入っていました。

授業の前半では学生は眠らずに、また内職などもせずにプロジェクター画面に目をやったり、資料を見たりと、良く聞いているという印象でした。ただ、淡々と授業が進む中で、9時11分頃に話題のあった「神町」についての話が出たときは、学生から少し笑いが出て、隣同志でヒソヒソと話し合う光景が見られました。これは、恐らく私語ではなくその話題に関連したことについて話し合っていたようで、この時初めて、教員と学生の一体感が出たような瞬間でした。

その後、9時20分過ぎから学生が3～4人、居眠りを始めたようでした。教室も暖かくなってきたことや、中村先生の声は明瞭で話も面白いのですが、ややもすると一方的な時間が流れていたことも原因と思われる。9時50分頃には次第に居眠りの学生も7～8人に増えていたようでした。9時57分頃の「タイランド」についての説明で、テキストを開くように指示したり、10時4分頃の「皆さん覚えているでしょうか・・・」という問いかけには少し反応して、目を覚ます学生がいたようでした。

全体としては、立て板に水のごとくの解説の中に、余談や裏話がちりばめられていて、引き込まれるような魅力を感じた授業でしたが、一方でノートを取りづらい、あるいは少し一方的すぎるような印象でした。

最後に、資料とパワーポイントが良く準備されていることに感心するとともに、私も小説に触れたのは学生時代以来の約25年ぶりくらいなので、かつて読んだ小説も違う見方ができそうだなということで、もう一度読んでみたくなりました。また、この授業のシラバスにある「小説は人間と社会のあり方を映し出す鏡である」という言葉が、この授業一つを受けただけで分かったような気がしました。



司会 私はWebで見ただけなので、講義室の雰囲気は分かりませんが、今のお二人の報告を聞いてなんとなくつかむことができました。Webでは大体1/3くらいを見たとありますが、きちんとパワーポイントの文字を画面で読み取ることができました。この形式の授業の6回目とのことで、回

を重ねるごとに、ゆっくりはつきり話すなど、随分変わってきたのではないかと思います。

授業のはじめは復習からで、あまり面白くない内容でしたが、途中から盛り上がってきました。それは、生身の人間がテキストを外れて話し始めた頃からです。私もWebを通じて本格的に聞き始めた頃です。画面を通じて重要なことは、そういうものが伝わってくることでしょ。ライブ感覚というか、公開だから脱線しないかといえ、脱線しない授業は面白くないんです。作品の批判もする。脱線している画像も出してほしいと思います。

途中を飛ばして最後の部分を見ましたが、照明のない暗い画面の中に中村先生が見えています。Web配信の場合、教員の姿は必要ない。無駄ではないでしょうか。画面いっぱいパワーポイントの資料が提示されていた方が良いと思います。口頭で「資料」と言っても、どんな資料が分からないので、もどかしいし、もったいない感じがしました。今回の講義は、ある意味一方的なものなので、Web上でも十分に楽しむことができました。それでは、他の参観の先生方どうぞ。



小田(山形短期大学) e-learning用の授業を公開するという貴重な経験をさせていただきました。本当ならば、他の教員も連れてくるべきだったと思います。

教員の仕事量がどんどん増える中で、なかなか時間が割けない状況にあります。中村先生の授業は、非常に良く準備されていると思いました。準備にかけられる時間はどのくらいなのでしょう。私たちがその時間を割くことができるのかと考えると、うらやましく感じました。

また、IT化、デジタル化といった場合、40代、50代の教員が、対応できる能力を持っているのが危機感を持ち、まぶしく思えました。先日、中村先生と一緒に北海道の大学を訪問し、最先端のIT技術を見てきましたが、IT化できなければ、今後は失格だという印象を持ち、ますます勉強をしなければならぬと感じました。

授業については、学生が内容を分かっているのかと思うときがありました。これは対面授業の時でも同じことが言えますし、遜色ないと思います。どこでも見ることができることを考えれば、利点が非常に大きいと思います。また、この授業ではプロジェクターを使って板書されていました。人間的感覚から言えば板書の方が良いように思いますが、この授業を見ている人の大半は、この方法に抵抗がないのかも

しれません。ジェネレーションギャップがありますので。総合的には、非常に完成度の高い授業だと思いました。佐々木 学部で授業評価の仕事を担当しており、来年度に引き継ぐことを考えながら参加しました。昨日開催された教授会では、e-learning を学部に分担させられ、何コマくらい作らなければならないとなるのではないかと聞いた話が出されていました。コマ数が割り当てられたときには、そういうことができる人材を配置しなければなりません。授業評価関係で来年度に引き継ぐとすれば、学部でも公開授業を開いてはどうかと思います。このような授業は、大変な手間暇がかかります。地域教育文化学部は立ち上がったばかりで、どういう授業評価ができるかといったときに、3つの学科でもっと公開授業をやってはどうかと思いました。どのくらいの手間暇と準備の時間がかかるのか、やった人なら分かると思います。パソコンを使える人なら、ちょっと勉強すれば、今日の授業のようなものはできるのか。60歳を過ぎてもできるのか。また、教室の環境作りはどのくらいのものが必要なのか、ということを感じました。



司会 お断りしておきますと、この授業の教室はごく普通の教室です。また、板書も OHP も普通のものを使って、Web で配信するだけのことです。他のドイツ語の授業では、黒板を使った授業を、ハンディビデオで撮影しています。e-learning の環境は特殊なものではありません。

元木 中村先生の授業は3年前にも見ましたが、パワーポイントの使い方は格段の進歩でした。前は15分間フリーズしたままだし、字もよく見えないままだったのですが、今日はフリーズもせず、文字や構成が1画面1画面よくできているし、前の画面に戻って確認もできており、素晴らしい内容でした。

この授業では、ほとんどペンを持っている学生は見受けられません。映像の板書を始めるとメモを取り始めますが、ノートを取ると聞き逃すくらいのスピードでした。この授業でノートを取るといったことはどういう意味を持つのでしょうか。

また、臨場感がほとんどない授業だとも思いました。学生のユニークな解釈をマイクで拾ったら面白いものになると思います。笑いがあったのは、阿部和重のときだけで、ライブ感をあまり感じない授業だと思います。普通の授業との差がないと思います。それは、教養教育を受ける学生にとってどうなのでしょう。逆に言えば、学生が非常に良く聞いていると感心しました。50~60人の受講生のうち7~8人が寝て

いるのが普通ですが、冗談も言わないのによく聞いているし、私語もほとんどないと感じました。最後に質問ですが、スクリーンと指示棒を使っていましたが、なぜレーザーポインタを使わないのですか。

中村 Web で配信する場合、レーザーポインタだとよく見えないのです。むしろ指示棒の方が見えます。よその大学では、指示棒の先に電球をつけているケースもあります。設備としては、顔に当たるライトがほしいと思いますが。

石田 高校の教員派遣で大学院にお世話になっている石田と申します。今日の授業は楽しく拝見させていただきました。教員は発言しっぱなしで責任がないという授業が多いのですが、e-learning では気を遣わなければならないのかと思いますし、授業中に聞き逃したり、復習したい学生にとっては有効な手段だと思います。また、できない学生はできないのだと思いますが、これは高校側の責任でもあると思います。

高橋 TA の高橋です。TA として授業の準備に当たっていますが、特に難しいこともなく、一度覚えたら誰でもできる内容だと思います。たまに他のキャンパスとうまく繋がらないこともあります。早めに来て準備することで防ぐことができます。例えば、配信先のキャンパスの機器の電源が入っていないと繋がらないのですが、これは連絡を密にしておけば改善できると思います。

司会 それでは、授業者の中村先生をお願いします。



中村 この授業の方向については、実はそんなに改善していません。初回の授業では文字が小さかったので大きくしたこと、マイクの音量を大きくしたことくらいです。改善する時間もあまりありませんので。

ノートを取らせたり眠らないようにするには、学生に作業をさせれば良いと思います。穴あきの設問を埋めるような小テストを考えています。また、感想文を書かせるだけではなく、学生に当てて、感想を聞いたこともあります。この講義は、2回で1つの内容が完結するスタイルです。実際に最初の回に聞いたことがありますが、まったく感想が出ませんでした。出ないのは良くない授業なのかもしれません。双方向性ということは一応考えていますが、時間がないので次の機会に活かしたいと思っています。

機材の改善も考えています。今日の場合、リモート講義用の映像を配信するという非常に素朴なスタイルです。ただし、講師の姿が画面に見えないのは良くないので、改善したい

と思います。画面に講師の姿がないと、教材を配信しているようにしか見えません。実際の授業風景を配信した方が、学生の受けも良いようです。北海道の大学を調査した際に、スタジオで集録したものはあまり良くないと聞きました。このスタイルはこれとして、少し改善していきたいと思っています。これとは別に、e-learning用の教材を開発していきたいと思っています。

司会 この方法が一番シンプルでやりやすいと思います。パワーポイントを使えなくても、黒板でも良い訳です。基本的には同じで、話す早さ、文字の大きさ、著作権への配慮が必要です。シンプルでありながら、他の授業はすぐに流すことはできません。面白い授業ほど、そのまま流すとまずいところがあります。また、どのように板書すれば良いか、学生の評価はどうすれば良いか、これらの問題にはどこかで対応しなければなりません。また、配布資料で間に合うのであれば、学生は手を動かさなideしょう。

中村 スライド資料を配付してあるので、手を動かす必要はありません。また、評価についてはレポートで行いますし、2回の講義のうち1回は感想文を書かせています。学生には、こういう作品があるのかと驚いてもらいたいし、小説とはこういうものかということを感じてもらいたいと思っています。

小田 この授業の受講生は、文学が好きですか？先生の意図するところは、何らかの小説を読んで、琴線に触れることではないかと思っています。



中村 後期の授業は、かなり自分の好きなものを取ることができるので、興味のない人は取らないと思います。学生の書いている感想文は、琴線に触れているものだと思っています。

司会 この講義はメモを取る必要がないのではないのでしょうか。メモをするような性質の授業ではないと思います。

中村 頭に入れて覚えてもらうような内容のものではないですね。

小田 この授業の受講生は、本を読むことが好きな人の集まりだと思います。作品に誘われているのではないのでしょうか。

中村 配付資料についてはいかがでしたか。

元木 量が多くてついて行けませんでした。

司会 Webで受信している人への配付資料はどうなっていますか。

小沼 PDFに変換して、Web上で配布しています。

元木 この配付資料の著作権は大丈夫なんですか。

中村 特定の個人に対して配布するのは構いませんが、本格的にe-learningが開始されれば問題になります。指定して本を買わせなければならないでしょう。

元木 その場合、レポートは、本を買って読んでということになりますね。

佐々木 このような授業の担当者はどうやって集めるのですか。学部ごとの割り当てですか。

中村 近いうちに、来年度の授業担当予定者に対して協力を依頼することになっています。

佐々木 この公開授業の情報をホームページ上で探するのが大変でした。工夫した方が良いでしょう。

司会 ドイツ語の方は、板書で構成された普通の授業をWeb配信しています。時間は20~30分ですが、冒頭に配信する内容を持って来るなど、e-learningを意識して授業が構成されています。今回の公開授業は、e-learningの実験です。このような授業が軌道に乗って少し楽になれば、その分を別のことに回すことができるようになります。

中村 学長はマルチメディアを活かすのが大事だとおっしゃっています。

今野 知識として覚えるのではなく観念として、というのであれば理解できます。

中島 小説を読むのは学生時代だと思います。夏目漱石や太宰治などを学生時代には読みましたが、それ以来読んでいません。今日の授業を聞いて、意外に面白い世界だと思いました。

司会 中村先生の授業は素晴らしい授業だとの評判をよく聞きます。すごく本を読んでいる文学好きにはたまらない授業なのでしょう。

中村 自分の授業については、単に学生のレベルには合わせたくない部分もありますので、そういうところを守りつつ、改善を図っていききたいと思います。文学は易くしようと思えばいくらでも易くできます。しかし、それでは大学の授業として受けるレベルではなくなります。一般市民向けの公開講座とは違う、大学の講義というところは守っていききたいと思います。ですから、その兼ね合いで改善を図ることになります。

司会 はい、中村先生ありがとうございます。それでは、時間も来ましたので、この辺で公開検討会を閉じたいと思います。みなさん、御参加いただき、ありがとうございました。



公開授業・公開検討会アンケート結果

- 設問 1 今回の授業の感想を自由に記述してください。
 設問 2 今回の授業を公開・参観して、御自身の授業をどのように振り返られましたか。何でも、自由に記述してください。
 設問 3 公開授業・検討会はいかがでしたか。何でも、自由に記述してください。



授業参観者のアンケート

参観者 1 : 人文学部

- 設問 1 について
 誰もが知っている作品を深く読み込んでいくという、非常に興味深い内容だったと思います。
 設問 2 について
 パワーポイントの長所・短所に注目して見ていました。その結果、従来型の黒板(あるいはホワイトボード)とパワーポイントを双方の長所が生きる形で併用する方法を探ってみてはどうかという思いを持ちました。
 設問 3 について
 後方で教員が参観しているにもかかわらず、眠っている学生を少なからず見かけました。教員のスキルアップとともに、学生の側にも何らかの変化が必要なのではないかと思いました。

参観者 2 : 人文学部

- 設問 1 について
 3 年程前のパワーポイント映像に比較して、格段に洗練され、見やすくなっていました。
 ノートをとることのない授業、逆に言うと学生が授業中にノートをとることの意味について考える必要があろう。
 設問 2 について
 そろそろノートパソコンを買おうかと思った。ただし、予算がこれほど少なくなってきたら、難しいなあ。
 設問 3 について
 山形大学の学生は、真面目に講義を聴くものだと感じました。
 参加者が少ないのが残念。

参観者 3 : 地域教育文化学部

- 設問 1 について
 ・授業者の研究の深さが、授業の展開や具体的な話の内容に充分あらわれていて、受講生の興味を持続させると思いました。
 ・プロジェクターの使用は、後の席の者にとっては非常に良いと思った。
 ・いろいろ工夫されてわかりやすい授業であるが、学生自身の思考の深まりという点について、いろいろ考えさせられました。
 設問 2 について
 ・プロジェクターの積極的な利用を考えることにしました。
 ・受講生の身になって、1 時間半の授業構想について考えられたこと。
 設問 3 について
 授業内容も興味深く、自分自身の授業を振り返ることができて有難く思いました。

参観者 4 : 山形短期大学

- 設問 1 について
 講師の話し方(声・速度等)、授業準備(資料・パワーポイント)は素晴らしいものでした(完成度が高い)。
 この1コマの為に費やされた時間はどの位だったのでしょうか。現在大学教員の授業以外の雑用、会議の多さの中でこのような授業を展開できるのは、一部の非常に有能な教員に限られてくるのではと思いました。
 板書の代わりにプロジェクターの試みは、私のような世代には少々抵抗がありましたが、現在の若者にはむしろ好まれるのかもしれない。
 受講生とのコミュニケーションが一切ない本日の形式は、本日だけのものだったのでしょうか。e-learning を意図していないとしたら、本日のIT駆使型に、従来型の受講者に面と向かうパターンを挿入することも考えられます。



- 設問 2 について
 90 分間の講義に大方の学生(いずれにしても睡眠不足等で眠っていたり、ケータイをする学生はいる)を飽きさせないためには、十分すぎる程の準備 授業者の通常の学問継続からもたらされる、深く、又、新しい知識が必要であると思われられた。

設問3について

参加者が少なかったのが残念であったが、自由に意見の交換ができて参加者にとっては非常に参考になるものであった。

参加者が他学部の先生であった為、違う学部の様子もわかってよかった。

参観者5：山形県立保健医療大学

* Webによる参観

設問1について

映像は問題なく映っていましたが、音声がかたとき途切れました。当方の問題かもしれません。

ご講義中、中村先生のお顔が暗くて見えないのが残念でした。やはり、教員の顔が見えた方が良いと思います。2台のカメラにすれば可能ですが、明るいプロジェクターで部屋を明るくすることでも対応可能と思います。

設問2について

私は講義プリントを使用して学生に書き込ませるようにしていますが、このような講義方法はe-learningには向いていないと思います。e-learningとしては、今回のようなPower Pointを使ったような講義になると思います。face-to-faceとe-learningのそれぞれに向けた講義方法を工夫していかなければならないと改めて感じました。

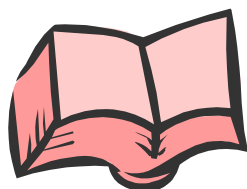
設問3について

検討会は自分の講義がありましたので、残念ながら参加できませんでした。



平成17年度山形大学教養教育改善充実特別事業

公開授業 & 公開検討会



日時：平成17年11月30日（水）
場所：山形大学教養教育棟
主催：山形大学高等教育研究企画センター
山形大学教育方法等改善委員会
共催：地域ネットワークFD“樹氷”

《 公開授業 》

時間 8:50～10:20

授業名 一般教育科目 文化・行動領域 文学

『変異する日本現代小説』

授業者 人文学部 中村 三春 助教授

教室 小白川地区 教養教育1号館2階 127番教室

工・農学部 リモート講義室

* e-learning システムを利用したリアルタイム配信も行います



* 中村助教授の「変異する日本現代小説」は、毎時間 e-learning - 動画コンテンツのリアルタイム配信テストを行っております。（工・農学部へはリモート配信も）

公開授業当日もリアルタイム配信を行います。授業終了後には、同授業の録画の配信も行いますので、空き時間を利用してご覧いただくこともできます。また、これまで行った授業の配信も行っております。

ご覧になった後は、ぜひご意見・ご感想をお寄せください。

詳しくは、下記 URL より、公開授業・公開検討会 - 平成17年度実施要項のページをご覧ください。

<http://www.yamagata-u.ac.jp/gakumu/kaizen/ksite/index.html>

山形大学高等教育研究企画センター 豊かな授業をめざして - 公開授業・公開検討会 - 平成17年度実施要項

《 公開検討会 》

時間 13:00～14:00

会場 教養教育1号館3階 137番教室（小白川地区のみ）

次第 13:00 開会のあいさつ

13:05 授業の観察報告

13:20 授業者の意見

フリートーキング（授業，e-learning について）

14:00 終了

「公開授業・検討会」を実施するに当たっての留意点

1 今回の「公開授業・検討会」が終了した後、授業者が授業の改善に利用することはもちろんのこと、参観者もその授業の良いところを発見し、自分の授業にも活かすよう心がけてください。

「また自分の授業を公開しても良い」「今度は自分の授業を公開しよう」といった積極的な姿勢を持てるような、内容のある、明るいムードの「公開授業・検討会」としてください。

2 授業者は、普段どおりの授業を心がけてください。参観者は授業に介入しないよう、参観する位置についても考慮してください。なるべく、学生の注意が参観者に向かないことが望まれます。

3 参観者は、学生と一緒にあって授業だけに集中しないでください。大切なのは、授業中の学生の反応です。授業の内容や授業者の行動の変化によって学生は敏感に反応しているはずです。学生は、どのような時に授業に集中し、どのような時に集中力を失っているのでしょうか。

また、今回参観した授業が、15回分（初修外国語の場合は30回）の1回だということに留意してください。今回の授業がその授業の全体ではありません。それと同時に、授業は、それまでに築き上げられてきた学生との関係によって成立していることも忘れないでください。

4 教室の環境などにも留意してください。授業の大切な構成要素です。

5 検討会では、参観者が授業を褒めることから始めてください。授業者のコメントから始めると、ひたすら反省の弁を述べ続けることになる恐れがあります。最初に授業を褒めることが、その後の授業の分析や批評の妨げになることはないはずです。

「公開授業・検討会」アンケート

授業改善の資料としますので、以下のアンケートに御協力ください。
ご記入いただきました内容については、授業改善の資料とする以外に使用することはありません。

山形大学教育方法等改善委員会

授業日時	: 平成17年11月30日(水)8時50分～10時20分
授業科目名	: 『 変異する日本現代小説 』
授業担当者	: 人文学部 中村三春 助教授

所 属 : ()

氏 名 : ()

参観方法 : 会 場 ・ リモート ・ W e b *

- 1 今回の授業の感想を自由に記述してください。
- 2 今回の授業を参観して、ご自身の授業をどのように振り返られましたか。何でも、自由に記述してください。
- 3 公開授業・検討会はいかがでしたか。何でも自由に記述してください。

* W e b により参観をされた方、今後の配信の参考とさせていただきますのでご意見、ご感想をお聞かせください。

OS : _____ 接続場所 : _____ 回線速度 : _____

御協力ありがとうございました。

会場の回収箱または、高等教育研究企画センター(k3cen@jm.kj.yamagata-u.ac.jp)までお願いします。

2. ミニ公開授業・ミニ公開検討会

ミニ公開授業&ミニ公開検討会登録授業(後期)

授 業 名	担当教員
なぜ人を殺してはいけないのか(哲学)	平田 俊博
ドイツ語 IIA2	奥村 淳
英語(C)	ジェリー ミラー
森林の科学(総合)	野堀 嘉裕

ミニ公開授業・ミニ公開検討会アンケート結果

授業科目名 :

授 業 者 :

公開日時 : 月 日() : ~ :

設問 1 今回の授業の感想を自由に記述してください。

設問 2 今回の授業を公開・参観して、ご自身の授業をどのように振り返られましたか。何でも、自由に記述してください。

設問 3 ミニ公開授業・検討会はいかがでしたか。何でも自由に記述してください。

【後期】

ミニ公開授業 1

授業科目名 : なぜ人を殺してはいけないのか(哲学)

授 業 者 : 平田 俊博

公開日時 : 12月20日(火) 10:30~12:00

授業参観者のアンケート

参観者 1 : 地域教育文化学部

設問 1 について

多彩な話題で学生の関心を引きつけておられたのが印象的だった。

学生は顔を上げてよく話を聞いていた。

学生たちが、自分の意見をきちんとまとめて話していたのは、学生の問題意識を惹起するのに成功しているからだろう。

設問 2 について

教員の一方的な講義が続くと、やはり集中力を持続させるのが難しいようだ。適宜、学生との対話や学生同士の意見交換・討論などによってメリハリをつけ、気分転換させることの必要性を改めて再認識した。

設問 3 について

授業の仕方を改めて反省するきっかけとして、非常に有意義であると思う。

参観者 2 : 地域教育文化学部

設問 1 について

最後に授業内容について意見を求められることから、学生は非常に熱心に受講していて感心しました。ただ、今回は、その時間がとても短かったため、学生の意見をじっくり聞くことができず(先生が途中で意見を引き取ってしまったりしたこと)残念でした。

他の回では、もっと討論の時間をとっているそうなので、そのようなことは少ないと思います。

設問 2 について

少人数の授業であることから、学生の意見や理解度などを確認できるので、私も、対象が40人以下の場合には、是非討論(学生と教員間・学生間)等を取り入れたいと感じました。

設問 3 について

久しぶりに教養科目(専門分野外の)を受講して、おもしろかったです。自分自身の授業の参考にもなるので、他の先生の授業も参観してみたいです。

参観者 3 : 教職研究総合センター

設問 1 について

平田先生の講義は「なぜ人を殺してはいけないのか」という問いを軸(テーマ)に15回にわたって倫理的な探求を進めるというものでした。この課題設定は、教養教育の本質、つまり「学問的な知見を糧に学生が自分の生きる社会や世界と向き合い、自らの生き方・見方・考え方を改めて問い返す」活動に迫る魅力的なものだと思います。ただ、今日の授業も非常に多くの問題提起を含むものでしたので、もっとストレートに学生に問いをぶつけて、意見交流を図る場面を設けると、より一層学生の探求活動が深まるのではないかと感じました。

設問 2 について

私も現在、教養を担当させていただいております。正直、80名と大所帯で一人一人の学生を大切にできず、また学生主体の学習も展開しづらく悩んでおりましたので、<20名+机・イス可動可>という本日の平田先生の教授・学習環境は非常にうらやましいと思いました。なお、先生の課題設定を拝見して、来年の教養はもっと大胆なテーマで行おうかなと勇気をいただきました。

設問 3 について

まずは、「授業を開こう」という先生のお気持ちに感服しております。せっかくなので、もう少し検討会を丁寧に行いたい感じがいたしました。例えば、授業の終わりに5分位時間をとって、学生に感想を書いてもらい、それを素材に話し合いをするなどすると、検討会がより充実したものになると思います。

本日は大変勉強になりました。よりよい授業に向けて、私自身も日々精進したいと思います。

平田先生、どうもありがとうございました。

参観者 4 : 教職研究総合センター

設問 1 について

テーマと扱われた内容が、とても興味深かった。また、説

明された内容も、歴史的な流れと、社会的背景とのつながりを解説してくださったので、理解が深まるものだった。

(今回の授業についてだけの感想として)今回は、学生たちが自分の意見を表現する機会が少なかったように思う。比較的人数の少ない授業だったので、学生同士で話し合いをして意見をぶつけ合うようなことがもっと盛り込まれると、学生たち自身の思いや考えを基にした授業展開になって面白いと思った。

設問2について

平田先生のお話の声、口調、話し方全体が、学生たちにしっかり響くものだった。私は、もともと声が小さく、どちらかというと話しが下手な方なので、私自身の授業での話し方を大変反省させられた。

また、平田先生の授業内容の厚み、深さを目の当たりにし、私は自分の研究分野や担当授業の分野について、もっと勉強しなくてはと強く思った。

設問3について

他の先生の授業を見せていただくのはとても勉強になった。それと同時に、ご自身の授業を公開された平田先生を尊敬する。

ミニ公開授業2

授業科目名 : ドイツ語 IIA2

授業者 : 奥村 淳

公開日時 : 12月16日(金) 8:50~10:20

授業参観者のアンケート

参観者1 : 人文学部

設問1について

モチベーションの高い学生が集まっているという印象を受けました。

設問2について

教科書の練習問題に関するヒントをのせたプリントを配布することで、問題の難易度を調節しておられました。配付資料の新しい使い方を知ることができました。

設問3について

昨年度と異なり、今年は後期のみの実施でした。今年度はもう行わないのかと思っておりました。また、募集に関しても突然だった感が否めません。来年度は明確な意図・スケジュールのもとに実施していただきたいと要望いたします。

参観者2 : 地域教育文化学部

設問1について

工学部学生の関心に即した話題設定がなされていること、できるだけ手を動かして覚えさせる手法が印象的だった。

設問2について

自分の板書の字は、場合によっては小さくて見づらいかもしれないと思った。(奥村先生はかなり大きく板書されていたので。)

設問3について

他の先生の授業方法から学べる貴重な機会であり、有意

義であると思う。

授業者のアンケート

設問1について

これまで自分が行ってきた公開授業の中では、もっとも普段に近いものとなった。学生諸君の無言の協力のおかげであると感謝しています。また、参観してくださった4名の同僚にも感謝します。

設問2について

単なるドイツ語(文法)知識の伝達としての授業は常から避けたいと思っていますが、参観の方にそれが通じておればよいと考えています。また学生諸君もそれを感じて欲しいと願っています。

それにしてもやはり授業公開は緊張します。

設問3について

普段から同僚の間で情報の公開はしていますので、特に新奇の感想はありません。

ミニ公開授業3

授業科目名 : 英語(C)

授業者 : ジェリー ミラー

公開日時 : 12月7日(水) 10:30~12:00

授業参観者のアンケート

参観者1 : 地域教育文化学部

設問1について

全参加者が楽しんでいるように感じた。

学生が立ったり、座ったり、次から次へと授業が展開している。飽きさせない。

指導案が簡潔で的確。

英語で話す練習をする局面で、日本語でムダ口。TAが学生に英語で話しかける等、リードする人が欲しい。

設問2について

私の授業では学生は聞いているのみ。受け身。

設問3について

疑問を共有できた。

参観者2 : 地域教育文化学部

設問1について

授業の構成が分かり易い。進め方もメリハリがある。各パート(会話)のテーマ、内容(表現)も明確。

教員と学生、学生同士のコミュニケーションが活発。

設問2について

授業の目標・内容にもよるが、もっと動きを入れたい(会話の場面では学生も立ったり、移動したりと)。そのためには、固定式机を移動式にして欲しい。

英語での意見交換だったので、表現力のない私には少々づらいものがあつたが、ネイティブスピーカーの先生方にも発音のみならず、様々な個性があり、有意義であつた。

授業者のアンケート

設問1について

いい経験でした。準備がちょっと大変でした。

設問2について

二つの助言をいただきました。まず、グループを作るときに英語の得意な学生と苦手な学生を交ぜること。それから、人数が多いので、TA(ティーチング・アシスタント)を使った方が効果的(説明, 評価, などの補助)。

設問3について

たまに他の先生の意見を聞いた方がいいと思う。自分だけで授業を組み立てると単調になりがち。新しいアイデアを取り入れると授業が新鮮になる。

平成 17 年 10 月 17 日

学部 学科
殿教育方法等改善委員会委員長
柴田 洋雄

「ミニ公開授業・検討会」へのご協力について（依頼）

教養教育では、平成 12 年度から、授業改善のための「公開授業」と「公開検討会」を実施しております。公開授業と検討会は授業改善のためにとっても有効な方法ですが、自分の授業を不特定多数に公開し、その検討会を実施することに躊躇なさっている先生方が多いのもまた事実です。そこで、本委員会では、昨年同様、教養教育改善充実特別事業の一環として、「ミニ公開授業・検討会」を行うこととしました。

「ミニ公開授業・検討会」は、授業を公開する先生が、自分が決めた特定の日に、気心の知れた 3～5 人の教員（学部や専門分野は問わない）に、あらかじめ声をかけて参観してもらい、その後そのメンバーでおよそ 30 分程度、授業の検討会を行ってもらうものです。あくまでも授業改善のためですので、授業者が授業の改善に利用するのはもちろんのこと、参観者もその授業の良いところを発見し、自分の授業にも活かすよう心がけてもらおうとの趣旨です。本委員会としては、山形大学に「ミニ公開授業・検討会」が拡大し、授業改善が進んでいくことを期待しています。

このたび、平成 17 年度後期に教養教育の授業を担当されている方全員にご案内した上で、上記の趣旨をご理解いただける方に、「ミニ公開授業・検討会」にご登録していただくこととしました。登録していただいた授業を、委員会のメンバーが参観したり、検討会に出席することはありません。委員会としては、検討会終了後に授業者と参観者にそれぞれ A4 版 1 枚程度のアンケートに記入していただき、それを今後の授業改善の資料にさせていただきたいと考えています。アンケート項目としては、授業者と参観者に共通の 3 つです。

今回の授業の感想を自由に記述してください。

授業を公開・参観して、ご自分の授業をどのように振り返られましたか。

ミニ公開授業・検討会はいかがでしたか。

この「ミニ公開授業・検討会」にご協力いただける方は、下記に公開日時と参観者名を記入の上、**平成 17 年 10 月 31 日（月）までに学生センター 1 階入口横の高等教育研究企画センター BOX**へご提出ください。公開日時が未定の場合はその旨お書きください。また、実施当日に参観者が変更になっても構いません。なお、登録いただいた方には、後日、「ミニ公開授業・検討会」のアンケート用紙をお届けします。

登録いただいた授業を事前に学内に公開することはありませんが、授業改善に興味のある方に幅広く公開して実施されることをご希望の方は、下記の記入表の欄にチェック印をつけてください

また、昨年度の様子については、平成 16 年度本委員会報告書「教養教育 授業改善の研究と実践」P.232～をご覧ください。（お持ちでない方は、高等教育研究企画センター（内線 4707）までご連絡ください。）

----- 切り取り線 -----

私は「ミニ公開授業・検討会」を以下のように実施する予定です。

所属： 学部 学科 氏名：

[****] * * * * *

実施日時：平成 年 月 日（ ） 校時

参観予定者：

この授業は、参観予定者のほか、参観を希望される方に広く公開します。

平成17年12月6日

「ミニ公開授業・検討会」登録教員 各位

教育方法等改善委員会委員長

柴田 洋雄

「ミニ公開授業・検討会」の授業者と参観者に寄せて

このたびは、「ミニ公開授業・検討会」の実施にご協力いただき、ありがとうございます。ご存知のように、「公開授業・検討会」は、授業者のみならず、参観者の授業改善においても、とても有効な方法です。

しかしながら、授業方法と同じように、「公開授業・検討会」の最善の実施方法は、いまだ確立されておりませんし、多様な授業方法がある限り、これからも確立されるとは思いません。本委員会としても、方法論についてはこれからも研究を積んでいかなければなりません。授業者改善の方法として有効に活用されるならば、多様な方法があつてしかるべきだと考えております。どうか、ご自分流の方法を編み出してご教示いただければと思います。

そうした前提を踏まえた上で、「ミニ公開授業・検討会」が、より実りあるものになるように、ここではこれまで本委員会で研究して参りました、「ミニ公開授業・検討会」を実施するに当たっての留意点を、別紙のようにまとめました。ご参考になれば幸いです。

なお、検討会の終了後に、別添のアンケートを授業者と参観者にご記入いただき、学生センター1階入口右側・高等教育研究企画センターBOXへお届けくださいますよう、お願いします。

「ミニ公開授業・検討会」を実施するに当たっての留意点

1 今回の「ミニ公開授業・検討会」が終了した後、授業者が授業の改善に利用することはもちろんのこと、参観者もその授業の良いところを発見し、自分の授業にも活かすよう心がけてください。

「また自分の授業を公開しても良い」「今度は自分の授業を公開しよう」といった積極的な姿勢を持てるような、内容のある、明るいムードの「ミニ公開授業・検討会」としてください。

2 授業者は、普段どおりの授業を心がけてください。参観者は授業に介入しないよう、参観する位置についても考慮してください。なるべく、学生の注意が参観者に向かないことが望まれます。

3 参観者は、学生と一緒にになって授業だけに集中しないでください。大切なのは、授業中の学生の反応です。授業の内容や授業者の行動の変化によって学生は敏感に反応しているはずです。学生は、どのような時に授業に集中し、どのような時に集中力を失っているのでしょうか。

また、今回参観した授業が、15回分（初修外国語の場合は30回）の1回だということに留意してください。今回の授業がその授業の全体ではありません。それと同時に、授業は、それまでに築き上げられてきた学生との関係によって成立していることも忘れないでください。

4 教室の環境などにも留意してください。授業の大切な構成要素です。

5 検討会では、参観者が授業を褒めることから始めてください。授業者のコメントから始めると、ひたすら反省の弁を述べ続けることになる恐れがあります。最初に授業を褒めることが、その後の授業の分析や批評の妨げになることはないはずです。

「教養教育ミニ公開授業・検討会」アンケート

授業改善の資料としますので，以下のアンケートにご協力ください。

山形大学教育方法等改善委員会

授業科目名：『 _____ 』
授業担当者：(_____)

授業者または参観者の所属等

所 属 : (_____)
氏 名 : (_____)
参観日時 : _____ 月 _____ 日 (_____) _____ 時 _____ 分 ~ _____ 時 _____ 分

- 1 今回の授業の感想を自由に記述してください。
- 2 今回の授業を公開・参観して，ご自身の授業をどのように振り返られましたか。何でも，自由に記述してください。
- 3 ミニ公開授業・検討会はいかがでしたか。何でも自由に記述してください。

ご協力ありがとうございました。
学生センター1階入口右側・高等教育研究企画センターBOXにご提出ください。